

兵庫医療大学
社会学連携推進機構

2021年度報告書



兵庫医療大学
社会学連携推進機構

はじめに

本学は2021年度私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献（地域連携型）」に3年連続で採択されました（申請大学155校中54校採択）。社会学連携推進機構が2015年4月に開設されてから7年間で6回採択されたこととなります。同機構の活動に対する兵庫医療大学全教職員の理解と協力の賜物です。

兵庫医療大学は、2022年4月1日から兵庫医科大学の薬学部・看護学部・リハビリテーション学部として再スタートしました。社会学連携推進機構は、今回の大学統合により社会学連携・研究推進センターの下に設置された二部門の一つ「地域貢献・生涯教育部門」に改組されました。同部門は、兵庫医療大学・社会学連携推進機構が培ってきた思い「地域と共に学ぶ」を引き継ぎつつ、医学、薬学、看護学、そしてリハビリテーション学の英知を集結し、兵庫医科大学の新しいスローガン「EMPOWER THE PEOPLE」の一翼を担うべく、地域医療職者・地域住民の生涯教育や自治体・地域コミュニティとの連携活動を推進するため、次の2つのポリシーに則り、活動してまいります。

〈ひとづくり〉生涯学習、リカレント教育などの学びの場を積極的に提供し、地域住民における健康増進および地域包括ケアシステム充実に貢献できる「ひとづくり」に継続的に取り組みます。

〈まちづくり〉兵庫県、県下の市町村、そして地域社会と協働しつつ、教職員だけでなく、学生たちの地域貢献活動への参画を促進し、兵庫医科大学の知と経験を活用した「まちづくり」に取り組みます。

本報告書には兵庫医療大学・社会学連携推進機構が2021年度に実施した活動ならびに自己点検・評価を取りまとめました。同機構の報告書としては最終号になりますが、関係者各位におかれましては「地域と共に学ぶ大学」として兵庫医療大学が取り組んできた「社会学連携活動」を兵庫医科大学「地域貢献・生涯教育部門」としてさらに発展していくため、是非、ご一読の上、引き続き変わらぬご指導・ご助言いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

2021年度の活動報告

地域創生を目指して

<到達目標>

- ①-1：新卒学生における兵庫県内就職率
50%以上
- ①-2：地域創生に資する Project Based Learning 実践学生 10名以上/年
- ①-3：兵庫県多自然地域の企業における新製品開発支援 2件以上/年

兵庫県の助成を受け薬学部「薬活オウルズ」が取り組んでいる「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおう」プロジェクトでは、COVID-19禍の煽りを受け、「漢方の里まつり」「薬草を食べよう！」などの恒例行事を2021年度も開催できませんでした。しかし、4年目を迎える丹波市立和田小学校との連携活動「当帰葉栽培プロジェクト」（4月23日学生3名）、学生たちと薬草組合と

うき生産部会の皆さんとの協働による当帰栽培（4月9日学生3名、5月22日学生9名、7月3日学生10名、10月30日学生6名）、そして、新たな取り組みとして兵庫県立氷上高校の授業「起業経営」の運営支援（11月24日学生5名、12月8日学生4名、12月15日学生3名、2022年1月12日学生3名）を実施し、丹波市における地域創生を支援しました。



さらに、薬学部2~4年生が当帰葉の食材などとしての普及を目的としてニュースレター「ホッとうきうき トウキ葉スタイル」の作成に取り組み、「Vo. 1 トウキ葉で調味料

を作ってみた！（9月学生2名）」「Vo. 2 トウキ葉で工作！ 日常を華やかに（11月学生3名）」「Vol. 3 トウキ葉で素敵なティータイム（12月学生2名）」「Vol. 4 親子で楽しく作れるクッキー&パイ（2022年2月学生2名）」を発行しました。



ニュースレター作成活動は9月20日に神戸新聞に、10月7日に丹波新聞に大きな記事として取り上げていただき、学生たちも大喜びです。また、学生（薬学部4年生）がレシピを考え創作したトウキ葉クッキーが好評で、（株）ウェルネスサプライ（丹波市立薬

草葉樹公園指定管理会社) から製造販売されました！ なお、ニュースレターは薬草薬樹公園等にて無料配布しています。

これらの活動を通して学生 55 名（延総数；前年度 30 名、前々年度 77 名）が地域創生を目的とする PBL を実践するとともに、新製品として「ホツとうきうきトウキ葉クッキー」の開発を支援できました。また、超有名な丹波市の「旅するパン屋 ヒヨリブロード」の「とうき葉パン」の製造販売も薬活オウルズとして支援しましたので、2021 年も到達目標①-2 と①-3 を達成できました。なお、2021 年度の 3 学部卒業生の兵庫県下への就職率は 64.6%（薬学部 14.7%、看護学部 95.6%、リハビリテーション学部 75.0%）、つまり 2020 年度と 2019 年度の実績（61.2% と 62.9%）を超える県内就職率で、到達目標①-1 も達成しました。

地域医療を担う人材の育成

<到達目標>

- ②-1：ポーアイコモンズ／篠山コモンズでの活動 10 回以上/年
- ②-2：地域医療の発展に資する Service Learning 実践学生 30 名以上/年

2021 年度も、本学と協定を締結している丹波篠山市健康福祉部が主催する健康づくり恒例行事「お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」 「健康相談」などに学生たちが参加できなかっただけでなく、本学が取り組んできた兵庫医療大学・ポーアイコモンズと篠山コモンズにおける健康づくり支援活動も全て中止となりました。その結果、昨年度に引き続き今年度も、両コモンズを活用した Service Learning 実践の場を学生たちにまったく提供

できず、残念ながら、到達目標②-1 と②-2 を達成できませんでした。

共同研究・受託研究の推進

<到達目標>

- ③-1：企業との共同研究・受託研究の実施 5 課題以上/年
- ③-2：他大学との共同研究の実施 1 課題以上/年
- ③-3：共同研究の成果として論文・学会発表または特許出願 1 件以上/年

2021 年度の共同研究・受託研究は前年度からの継続 11 課題と新規 8 課題です（表 1）。2020 年度（12 課題）だけでなく 2019 年度（15 課題）の実績を大幅に凌駕しました。これらの研究成果として論文発表 1 編（表 2）があり、到達目標③-1～③-3 すべてを達成できました。なお、特筆すべき点は、この論文が運動器科学界 2022 年度学会奨励賞を受賞したことです！

表 1. 2021 年度 共同・受託研究一覧*

	共同・受託研究機関	学内担当者#
継 続	摂南大学 (共同研究)	薬・准教授 清水 忠
	ユニ・チャーム (株) (共同研究)	リハ・教授 川口 浩太郎
	(株) ホーマーイオン研究所 (共同研究)	リハ・教授 玉木 彰
	(株) ナガセビューティケア (受託研究)	薬・教授 戴 毅
	兵庫医科大学 国立研究開発法人理化学研究所 (共同研究)	リハ・ 准教授 宮本 俊朗
	奈良県薬事研究センター (共同研究・契約 1)	薬・講師 岩岡 恵実子
	マクセル (株) (共同研究)	リハ・教授 坂口 顕
	国立研究開発法人理化学研究所 (共同研究)	薬・教授 戴 毅

継 続	奈良県薬事研究センター (共同研究・契約2)	薬・講師 岩岡 恵実子
	(株) 木幡計器製作所 (共同研究)	リハ・教授 玉木 彰
	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (委託研究1)	薬・教授 田中 明人
新 規	関西医科大学 (共同研究)	薬・助教 神田 浩里
	エイチ・ライフ21(株)(有) ジー・エフ・コーポレーション、 (株) オフィス u (共同研究)	薬・准教授 木下 淳
	(株) アミノアップ (受託研究)	共セ・講師 土江 伸誉
	福島県立医科大学 (共同研究)	薬・教授 戴 毅
	神戸女子大学 (共同研究)	薬・准教授 高良 恒史
	北京中医薬大学 (共同研究)	薬・教授 戴 毅
	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (委託研究1)	薬・教授 田中 明人
国立研究開発法人 科学技術振興機構 (委託研究)	薬・助手 芝田 宏美	

* 連携先機関等との守秘契約のため、取り組んでいる共同・受託研究の課題名、テーマ等は記載していません。

薬：薬学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター。

表2. 2021年度 共同・受託研究の成果発表

- 1) 尾崎晴美、井上大輔、塚越 累、坂口 顕、藤岡宏幸、笹山賢一、近藤 唯、井上康司、川口浩太郎、骨盤帯ベルトが下肢筋力に及ぼす影響、*運動器リハビリテーション*, 2021, 32 (3), 279-285.

「ひとづくり」支援

<到達目標>
④-1：薬剤師生涯学習セミナーの開催2回以上/年
④-2：地域在宅看護実践力育成プログラム受講者10名以上/年
④-3：PT・OT臨床カステップアッププログラム受講者10名以上/年

2021年度も文部科学省認定「職業実践力育成プログラム (Brush-up Program: BP)」として、看護学研究科では「地域在宅看護実践力育成プログラム」を開講し13名の修了者に、医療科学研究科では「PT・OT臨床カステップアッププログラム」を開講し6名の修了者に、履修証明書を発行しました(表3)。その結果、到達目標④-2は達成できましたが、④-3については未達に終わりました。2022年度は「在宅看護実践力育成プログラム」を7名が、「PT・OT臨床カステップアッププログラム」を17名が受講予定です。来年度は到達目標④-2が未達になりそうです。目標未達の原因としてCOVID-19禍の影響を考えているところですが、大学統合を契機にBP受講生のリクルート方法について再考すべきかもしれません。

薬学研究科では、地域の薬剤師を対象として「生涯研修セミナー」を2回開催しましたが、全8回シリーズの「中医薬実践講座 中級」についてはCOVID-19禍のため開催を自粛しました。一方、薬学部・准教授・清水が、地域薬剤師の生涯学習の場としてオンラインにてWeb-Evidence Based Medicine (EBM) 実践講習会を4月から毎月1回提供しました。毎回参加者も多く、到達目標④-1を達成できました。

表3. 年度別BP受講者・修了者数

年度	地域在宅看護実践力育成プログラム	
	受講生	修了生
2016	18	14
2017	12	13
2018	20	20
2019	11	11
2020	12	10

2021	11	13
2022	7	

	PT・OT 臨床力ステップアッププログラム	
2016	14	13
2017	7	7
2018	6	5
2019	16	13
2020	14	11
2021	6	6
2022	17	

総数	171	136
----	-----	-----

一方、地域住民を対象とする教室、セミナー等については、一部をオフラインにて開催しましたが、多くは COVID-19 感染予防対策を踏まえオンラインでの実施となりました。表 4 に実施状況をまとめています。2021 年度は Web-EBM 実践講習会を含め教室、セミナー等を、昨年度実績を大きく上回る 33 回も開催できました（2020 年度 14 回、2019 年度 60 回）。COVID-19 禍においても可能な限り地域の住民や医療専門職者に生涯学習の場を提供しようという本学教員の熱い思いが表現された結果だと喜んでいる次第です。

表 4. 2021 年度に実施した講演会、セミナー等

開催日	講演会、セミナー等の演題 (担当者*)
4月24日(土)	第10回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
5月29日(土)	第11回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
7月3日(土)	第12回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
7月14日(水) 12月23日(木)	新規放射線教材の開発及び薬学生 による放射線教育の提案 (薬・藤野秀樹)

7月17日(土)	第14回薬学部生涯研修セミナー 添付文書の電子化と 薬学部での教育 (薬・木下 淳) 添付文書プラスアルファの 情報収集と活用 (薬・清水 忠) 今後と将来において 薬剤師に求められるもの ～薬剤師の仕事は どう変わっていくのか～ (中川調剤薬局・原田祐希)
8月7日(土)	第13回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
8月25日(水) 9月8日(水) 9月23日(木)	健康みなおし教室 ～トイレに悩む前に～ (リハ・森 明子)
8月28日(土)	第14回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
9月18日(土)	はじめてのパパの Web 育児講座 (看・阿川勇太)
10月2日(土)	第15回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
10月30日(土)	第16回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
11月13日(土)	新型コロナウイルス感染症流行下 における病院薬剤師の役割～ダイ ヤモンド・プリンセス号乗船から 現在に至るまで～ (大阪医療センター・飯沼公英)
11月20日(土)	ポーポキ・ピース・ネットワーク 「健康って何色？」 (薬・桂木聡子)
11月27日(土)	第17回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
11月27日(土)	脳の働きに障害があっても、 その人らしく生活するには ～本人や周りができること～ (リハ・清水大輔)
12月11日(土)	中高年のメンタルヘルスと音楽 (看・今野理恵)
12月11日(土) 12月12日(日)	脳と心の健康チェック 2021 (共セ・土江伸誉)
12月30日(土)	第18回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
1月29日(土)	第19回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
2月7日(月) 3月14日(月)	リラクゼーションを取り入れた健 やかな健康を目指して～家庭に役 立つ看護技術講座シリーズ～ (看・鈴木みゆき)
2月26日(土)	第20回 Web-EBM 倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)

3月5日(土)	『不思議な国のアリス』に見る 19世紀英国の社会 (共ゼ・福田範子)
3月11日(金)	嚥下機能低下予防講座 (薬・桂木聡子・看・細見明代、 山田千春、リハ・森 明子)
3月19日(土)	第15回薬学部生涯研修セミナー 薬剤師が風邪薬を提案するまでに 考えること～風邪のトリアージと 薬の選び方～ (株式会社sing・児島悠史)
3月26日(土)	第21回Web-EBM倶楽部 (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)
3月12日(土)	パパが知りたいファイナンシャル プランニング (ファイナンシャルプランナー・ 杉本進太郎、足立裕樹)
3月13日(土)	パパが知っておきたい、 子どもへの関わり方の秘訣 ～夜の学舎編～ (看・阿川 勇太)
3月27日(日)	第9回Web-EBM倶楽部 緊急避妊薬のコクラン システムティックレビュー (薬・清水 忠、 摂南大・薬・上田昌宏)

* 薬：薬学部、看：看護学部、リハ：リハビリテーション学部、共ゼ：共通教育センター。

「ものづくり」支援

<p><到達目標></p> <p>⑤-1：企業との共同研究の実施 2 課題以上/年</p> <p>⑤-2：企業における課題解決に資する Project Based Learning (PBL) 実践学生 5 名以上/年</p> <p>⑤-3：企業における新製品開発支援 2 件以上/年</p>
--

到達目標⑤-1～⑤-3は以下に記すように2021年度も達成できました。

2021年度は9企業(2020年度5企業、2019年度8企業)と7課題の共同研究を実施しました(表1)。これらの共同研究では、(株)ホーマイオン研究所の課題について理学療法学科の学生2名、(株)ナガセビューティケアの課題について薬学部の学生8名、マクセル(株)の課題について理学療

法学科の学生2名、(株)木幡計器製作所の課題について理学療法学科の学生8名、アミノアップの課題について薬学部の学生1名、総数21名がPBLを実践しました。

一方、本学との連携により企業が開発した新製品としては、「薬活オウルズ」が開発支援した(株)ウェルネスサプライの「トウキ葉クッキー」とヒヨリブロートの「とうき葉パン」があります。

「まちづくり」支援

<到達目標>

- ⑥-1：地域の健康づくりに資する Service Learning 実践学生 20 名/年
- ⑥-2：「兵庫医療大学健康づくりサポーターバンク事業」新規登録者 5 名/年

2021年度もCOVID-19禍の影響により、本学公認サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク(ポーアイネット)」の学生達にService Learningを実践する場を提供できませんでした。また、2018年度に立ち上げた「兵庫医療大学健康づくりサポーターバンク事業」では、リハビリテーション学部・講師・永井らが主催する「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」講習会は今年度も感染拡大防止対策の一環として開催自粛しました。その結果、到達目標⑥-1と⑥-2は未達です。

しかし、一昨年度までに同講習会を修了し、本学サポーターバンク事業に登録しているサポーター(総登録者数63名)の皆さんが、7月以降徐々に活動を再開しました。その結果、神戸市中央区社会福祉協議会からの依頼に基づき、神戸市中央区つどいの場(通いの場)の運営を担う住民を対象とする「つ

どいの場合交流会講座～フレイル予防ミニ講座～」（参加者 43 名）の講師をサポートさんが担当されただけでなく、7 月 19 日から 2022 年 3 月 28 日にかけて港島ふれあいセンターにて 5 回、宮本地域福祉センターにて 3 回、籠池地域福祉センターにて 4 回、そして押部谷地域福祉センターにて 1 回の介護予防体操教室もサポートの皆さんが自主運営されました。これら全 14 回の教室（前年度 18 回）への参加者延総数は地域住民 211 名（前年度 196 名）、登録サポーター 48 名（前年度 86 名）でした。



長引く COVID-19 禍のため活動しにくい状況ですが、登録サポーターの皆さんの熱意と行動力により、昨年度と同様に感染拡大の波間をぬって「地域の、地域による、地域のための健康づくり」が自主的かつ継続的に実践

されたことは、サポーター活動を支援する大学として非常に嬉しい限りです。

自己点検・評価

2021 年度は、到達目標②-1、②-2、⑥-1 および⑥-2 については昨年度に引き続き未達となり、新たに到達目標④-3 も達成できませんでした。これらの目標が未達に終わったという事実だけを眺めると、2021 年度も兵庫医療大学の社会学連携活動は COVID-19 禍を克服できなかったのかと思われるかもしれませんが、しかし、2020 年度に浮き彫りにされた課題を踏まえ、本学教職員がウィズコロナ・ポストコロナ時代を念頭に様々な技術やツールを学習しつつ創意工夫し社会学連携活動に取り組んだ結果、ポリシー①、③～⑤において設定した到達目標については、昨年度実績を超えて達成できました。

これは、兵庫医療大学における社会学連携活動について、組織としてだけでなく、「教員活動計画・報告書」の作成提出を通して個々の教員が自己点検・評価し、毎年、その質の向上に取り組んできた真摯な態度と熱意の賜物だと、自負しています。このように、組織および個として積み上げてきた経験と実績を糧に、2022 年度以降、兵庫医科大学「地域連携・生涯教育部門」として、地域住民の健康増進・介護予防、そして地域住民だけでなく地域医療専門職者の生涯学習を支援しつつ、地域と共に学ぶ大学として地域貢献に取り組んでまいります。

以上

社学連携推進機構 2021 年度報告書

発行日 2022 年 8 月

発 行 兵庫医科大学 神戸キャンパス
〒 650-8501 兵庫県神戸市中央区港島 1-3-6
TEL 078-304-3000

【兵庫医療大学 社会学連携ポリシー】

①地域創生をめざして

兵庫県は、他の地方自治体と同様に、少子高齢化、転出超過などの問題に直面しています。これらの問題点を解決するため、兵庫医療大学は、兵庫県ならびに県内の市町村と協働し、本学の知と経験を地域創生のために積極的に活用していきます。

②地域医療を担う人材の育成

超高齢社会に突入した日本では、今後さらに、地域医療の充実が求められます。兵庫医療大学は、地域社会から地域社会とともに学ぶ双方向型教育研究を実践し、高度医療専門職者として地域に根ざして地域医療を担う人材の育成に取り組みます。

③共同研究・受託研究の推進

科学技術創造立国を目指す日本において、大学の研究活動に大きな期待が寄せられています。兵庫医療大学は、本学の知的財産などの様々な研究成果を活用する共同研究・受託研究を推進し、大学の知と経験の社会還元積極的に取り組みます。

④「ひとづくり」支援

「21世紀兵庫長期ビジョン」において兵庫県は、県民主役・地域主導による一人一人が元気な成熟社会を目指しています。兵庫医療大学は、この兵庫県の取り組みを支援するため、高大連携、生涯学習、リカレント教育などの学びの場を積極的に提供し、地域社会における「ひとづくり」に、持続的に取り組みます。

⑤「ものづくり」支援

医療や健康づくりをキーワードとして「ものづくり」に取り組んでいる在兵庫企業は、独自技術の未活用、科学的根拠の不足など、様々な課題を抱えています。兵庫医療大学は、本学の知と経験を活用することにより、それらの企業が直面する課題の解決を目指して協働し、地域社会における産業イノベーションを積極的に支援します。

⑥「まちづくり」支援

「ひとづくり」と「ものづくり」だけでなく、「まちづくり」も大学に求められている社会貢献の一つです。兵庫医療大学は、兵庫県、県下の市町村、そして地域社会と協働しつつ、教職員だけでなく、学生達の地域活動への参加を促進し、大学の知と経験を活用した「まちづくり」に取り組みます。